

自ら学び続ける教職員研修支援事業 活動報告書

グループ名 チーム G-MO

テーマ 発達に障がいをもつ児童の実態を、教師が的確に客観的に捉える力をつける

取組のポイント・成果

毎月1回17時15分～19時に自主研修会を実施した。前半は各種検査の概要を知る研修会、後半は事例検討会を行った。事例検討会では、授業や児童の様子を動画にすることで実態について客観的に共有した上で意見交流を行い、個々への支援や授業改善につなげた。

① 令和6年6月20日（木）

「NCプログラム（認知・言語促進プログラム）の使用方法と活用について」
「事例検討会①」
書字の実態把握と発達段階に合わせたひらがなを書くために必要な力

② 令和6年7月22日（月）

「NCプログラムによる児童の実態把握と指導の組み立てについて」
「事例検討会②」
発達性協調運動障害、固有感覚・前庭感覚・視知覚等に不具合のある児童の支援

③ 令和6年8月21日（水）「夏季研修会」

【テーマ】「発達に障害をもつ児童の実態を、教師が客観的に捉える力をつける」
【講師】 岐阜聖徳学園大学教育学部特別支援教育専修 准教授 野村香代 氏
【内容】知的障がいをもつ小学部の児童を事例検討
NCプログラム（認知・言語促進プログラム）による
実態把握と自立活動・国語・算数の授業の動画を使用することで児童の状態像について共有した。参加者からの質問に対して、野村先生より回答いただいたり専門的な観点で説明していただいたりした。少人数の研修会のため3時間に渡って活発な質問や意見が飛び交い充実した研修会となった。環境設定の重要性や行動を細分化して課題を整理するとよいことなどが学べた。



④ 令和6年9月19日（木）

「児童の動画を使用した事例検討会③」
知的障がいの児童の集団で行う自立活動の授業改善
重度重複障がいの児童が人や物に向かうための自立活動の授業改善

⑤ 令和6年10月21日（月）

「TASP研修会」
TASP 保育指導要録のための発達評価シートを活用して児童の実態を捉える

⑥ 令和6年11月26日(火)

「児童の動画を使用した事例検討会④」

知的障がいと片麻痺を併せ有した児童のはさみの使用のための治具や教材教具の開発について (1)

⑦ 令和6年12月17日(火)

「児童の動画を使用した事例検討会⑤」

重度重複障がいの児童の視覚・聴覚・触覚への働きかける自立活動の授業改善

知的障がいと片麻痺を併せ有した児童のはさみの使用のための治具や教材教具の開発について (2)

⑧ 令和7年1月31日(金)

「VinelandⅡ適応行動尺度」

適応行動の観点で日常生活の困難さを客観的に把握し、支援ニーズを明確にすることを学ぶ

「事例検討会⑥」

知的障がいの児童の鉛筆・スプーン・箸の指導、手や指の発達段階、つまむ力を育てる支援について

《成果》

- 各研修会では、いろいろな検査について学ぶことで、定型発達に照らし合わせながら特別支援の教員として客観的に実態把握をするための見方や捉え方を知ることができた。児童の実態把握や目標設定では主観で決めてよいのか悩んでいたが、検査の項目を知れたことで個別の指導計画の目標のヒントになり、児童の課題を多角的な視点でとらえる事ができるようになった。
- 教師が主体的に日ごろ課題にしている事例を提供した。動画視聴をしながら児童の動きを教師が自分の身体で再現することでどこに問題や課題があるのかを探りつつ有効な支援方法について考えることができた。
- 日ごろ、他学年や他の障がい種の授業や指導場面を見る機会が少ないため、若手や経験の浅い職員にとっては、事例検討会は貴重な機会となった。また、肢体不自由や知的障がい、発達障がい、運動機能など参加者の経験値や得意分野が異なるため、各々が多角的に捉えいろいろな視点から意見を出し合うことができた。事例提供者だけでなく参加者の視点も広げることができた。
- 同じような課題で悩んでいる事例について、教材教具の開発のためのアイデアを出し合ったり、上手くいった指導を共有しあったりすることで、教員同士が主体的に切磋琢磨することができた。
- 研修会を通して、各事例の児童のその後の成長を報告しあうことで、指導によって児童が伸びた喜びを、参加者全員で共有することができた。
- 毎月の研修会では、指導・支援の悩みを参加者が気軽に相談できる場となった。気付き・考え・知識・類似した事例など、活発な意見を出し合いながら、課題を焦点化していった。児童の動きや行動から原因を推測した後、根拠や理由や支援方法を自分の言葉で具体的に述べることを重ねたことで、疑問に思える力、それらを自分の言葉で伝える力が付いてきたと教師自身が実感できた。

今後の課題

毎月の活動を重ねたことで参加した教師の学びが深まり本グループの活動のテーマにも迫ることができた。しかし、勤務時間外の自主研修という枠組みのため、校内の他の職員には夏季研修会の案内や購入した検査道具の紹介等にとどまり、活動内容を還元することが弱かった。併せて、動画を使用した事例検討会で向上した指導方法・教材の紹介等も、校内の職員に具体的に伝えていく工夫が必要だと感じた。実態把握の方法を校内の研修会や研究に取り入れると少ない負担で効果的なことを提案したり、活動の様子や教材などは Teams を使用して紹介したりするなど、還元方法を改善していきたい。